

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200485		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホーム ハートフル		
所在地	岐阜県関市下有知5367番地4		
自己評価作成日	平成26年8月1日	評価結果市町村受理日	平成26年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&i_gyosyoCd=2170200485-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成26年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム ハートフルは、周りを自然に囲まれた環境にあり、四季折々の草花を楽しむことができます。利用者に楽しく生活を送って頂けるよう、併設特養と一緒に外出したりお互いの行事に参加したり、また、入所前に利用していたデイサービス やショートステイの友人に会いにいかれたりと施設内を自由に行き来し、なじみの関係を大切にしています。食事は、畑で利用者と一緒に栽培した野菜を調理したり、季節を感じる献立を取り入れ(ほうば寿司・おはぎ・流しそうめんなど)職員と一緒に作り、天気の良い日は、中庭でのランチを楽しんでいます。また、真夏、真冬など定期的に外出が向きの時など、ボランティアを招き室内で行える行事を企画しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所を含む法人施設は、民家から少し離れた丘の中腹にあるが、地域との交流を大切に考えて工夫している。また、マジックや紙芝居等の多くのボランティアや学生の福祉体験を受け入れている。外食や買い物など外出する機会を多く取り入れ、利用者が満足できる生活が送れるよう工夫している。法人の理念が実践できるように、毎年職員間で話し合って事業所の目標を決めている。職員は個人の目標を掲げ、日常のケアに取り組んでいる。管理者は半年毎に面接し目標の達成度や理念の実践を確認して助言している。運営推進会議のメンバーの協力を得て、会議と合わせて家族会を公共施設やラドンセンターなど事業所外で行うことで、利用者・家族から大変喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「福祉の原点は、サービスである。サービスに徹する。」ハートフルという名前の如く「努力する心いっぱい」「豊かな心いっぱい」「祈りの心いっぱい」それに感謝する心を持って生かされていることを充分心に止めて、日々の業務に努める。この理念を玄関に掲示し、常に意識し業務に入っている。	法人の理念が実践できるように、毎年職員間で話し合っ事業所の目標を決めている。職員は個人の目標を掲げ取り組んでいる。管理者は半年毎に面接し目標の達成度や理念の実践を確認して助言している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアに訪問を依頼し、利用者との交流・生活の活性化に向けて活動している。また、運営推進会議の際は民生委員に参加を呼びかけ活動の理解に努めている。	マジックや紙芝居等多くのボランティアや学生の福祉体験を受け入れている。管理者は、地域との繋がりを大切に考え、茶話会を計画して、パンフレットを配布したが成果には繋がらなかった。	管理者は、利用者が生き生きとした生活を過ごすには地域との交流も大切と考えている。今後も、地域への働きかけを継続することを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元福祉系の大学実習生の受け入れを実施。又、近隣地域の小・中・高等学校よりボランティア活動も受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族・御利用者の意見や要望などを取り入れながら、運営推進会議にて話し合いを実施している。また、多様なテーマを話し合える場として、薬剤師・警察署・地域包括の方にも参加して頂いている。	運営推進会議メンバーの協力を得て家族会や避難訓練などに合わせて開催し多くの意見や要望が出されている。事業所外で会議を行う場合はメンバーから場所の情報を聞いて開催している。利用者、家族は大変喜ばれていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年6回の運営推進会議には、毎回の参加を頂いている。市担当者の参加により、運営に関わる様々な情報や他の施設の運送う状況などの意見を参考に会議に生かしている。	管理者は、書類の提出など市に出向いている。運営推進会議の相談や文化センターなどの公共施設を利用する場合は市の担当者に聞いている。市から市民運動会に誘われて参加を予定している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内は、日中、全室及び玄関には施錠せず、利用者は過ごしている。また、会議において話し合いの場をもっている。	法人内で行われる「身体拘束ゼロ委員会」に管理者が参加し、検討された事例等を職員へ伝えている。朝礼で事故報告やヒヤリハット報告をし職員間で話し合い身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内部・外部研修の実施、参加を推奨。また、玄関にパンフレットや制度の説明書を設置し、相談を受ける時はパンフレットなど使用して説明している。		

グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	情報の共有を目的に、内・外部研修を受け全体会議にて発表している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をする前に事前面接を行い、家族・利用者の不安や要望を伺うと共に十分な説明を行い、理解納得を得、ご家族に同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に介護相談員の訪問を受けており、利用者と談笑され帰るときに、気付いたことや感想などをノートに記入してもらっている。	家族が要望等を言いやすいように近況報告の様式を見直した。家族会や外食への参加を呼び掛け、その折に意見や要望を聞いている。行きたい所や食べたいものなど利用者の要望を聞いてミーティング等で話し合い実践に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のGH会議に於いて職員の意見を取り入れ話し合いを持っている。また、年2回個人面接を実施。目標の反省とともに今後のことや悩みの相談に応じている。普段の業務時においても同様である。	毎月のミーティングでは、多くの意見が出され話し合っている。管理者は職員と二人になった機会や面接時に意見・要望を聞いている。管理者は、購入物品や勤務時間などの意見を聞いて代表者に伝えケアに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の目標に沿った部門目標・個人目標を設定し、各職員の〈やる気〉を引き出す取り組みを行っている。また、年1回改善提案の募集があり、各個人や共同にて提案をし、良い案に対しては奨励金制度もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内部・外部研修の実施、担当職員のOJTなどで育成、指導している。新人職員指導の際には、「介護職員スキルアップ表」を使用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会中濃支部に加入しており、他施設との意見交換をして交流をはかっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時、利用者・家族がゆっくり話が出る様に傾聴に心掛けている。併設の居宅サービス利用されていた方は、利用中にグループホーム職員が様子を伺ったり、他職員と情報共有の強化に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた時は十分に話を伺い、入所まで間がある時は、電話などで様子を伺い相談や情報交換に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族のニーズに応じて、併設施設の相談員と連携をとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おやつ作りや季節の食べ物、畑で収穫した野菜を使った食事、週に1度の外出(喫茶店・買い物)などを通じて、共に「当たり前の日常生活」を共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時と年4回一筆箋にて、利用者の日常の様子をお知らせしている。また、利用者の自分では言いにくいことなどを代弁させて頂くこともある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所まえに利用していたショートステイやデイサービス利用者とのなじみの関係を継続して頂いている。自由に行き来し、開放的な雰囲気である。	入所前のケアマネジャーから併設施設を知人が利用していることを聞き、面会に出掛ける利用者もある。友人が来訪したときに事業所の行事と一緒に参加してもらった。馴染みの店など希望を聞いて出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で過ごされている方も、時折職員が声を掛けてリビングへお誘いし、他利用者と一緒に過ごせるようはたらきかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(契約)終了の際は、「お近くへみえたら、またお立ち寄り下さい。」「困った事などありましたら、いつでも相談下さい。」と気軽に来所できるよう声をかけ配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前面接時や入所に至るまで、入所後もご家族との面会や電話連絡を実施し、想いや希望を把握するように努めている。また、暫定プランを作成する時にも希望を尊重するよう、情報収集・共有に努めている。	外出先や食べたい献立など日常的に思いや希望を聞いている。夜間居室でゆっくりと話しを聞くこともある。担当の職員は、思いや意向をカンファレンスで話し合うことで職員間で共有出来るように工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時には、特にご家族や御本人より生活歴や趣味嗜好等をじっくり伺い記録しており、カンファレンスに役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所後2週間は、24時間の行動を把握するため「生活経過記録」を残していく。また、日常の会話の中で、本人の要望や困り事を傾聴し今後の生活支援に繋げていると併に記録に残し、職員間の周知に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の中で御本人の思いや希望などを伺い、担当者・ご家族・ケアマネジャー・医師・看護師とも相談しながら、御本人の意見を反映できるよう個別に検討し介護計画の作成をしている。	介護計画は、担当職員が暫定計画を作成している。それを基に計画担当者は、本人や家族に意向を確認し、医師・職員と相談して介護計画を作成している。定期的に家族に電話等で確認しながらモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的にモニタリングと評価を実施。GH会議にてカンファレンスを行い、職員全員で見直し変更を話し合い、次のケアプランに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設の応援を受け、急な受診時等に対応している。特養看護師も24時間体制にて対応し、部署間の枠を超えた関係を築いている。特別な外出では、併設施設の運転手の応援を受けることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの活用により、マジックショー・歌謡ショーなどのお楽しみ会を開催。利用者に楽しんでいただけるような機械を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	「かかりつけ医」の連携の下、利用者全員の体調管理や体調不良時など、24時間体制で対応可能。また、重症時には地元総合病院への紹介、連絡の協力もあり。	従来のかかりつけ医にするのか協力医とするのか契約時に聞いている。かかりつけ医を受診する場合には、事業所が作成した受診シートを家族に渡している。受診の結果は家族から聞いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設する特養の看護師に情報や気づきを随時報告し、指示を仰いでいる。また、夜間は、看護師との連携により、急変時に十分対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者が出た場合、管理者が週に1回面接に伺い家族より状態を聞き、また、病院関係者への情報交換を行い、ご家族・利用者の相談等に対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医と24時間、365日の連携体制を確立。また、併設する特養看護師にも24時間連絡をとれる体制にある。ご家族には、夜間付き添い等協力を依頼し、常に協力医、看護師、家族、職員と連携しながら終末期ケア実行の体制を整えている。	契約時に、希望があれば看取りを行うことを説明している。状態の変化に合わせて、医師、併設施設の看護師、職員、家族で、話し合いを重ね、終末期の支援体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修でのAEDの操作・心肺蘇生訓練の定期開催を実施。また、運営推進会議を活用し、ご家族にも定期的に習得できる機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームの立地条件が山に囲まれていることから、土砂災害を想定した避難訓練を運営推進会議にて実施する。避難指示が発令された時は、ご家族にも家での待機を了承いただく。	併設施設と合同で年2回訓練を実施している。運営推進会議のメンバーや家族が話し合い、土砂災害想定訓練を行い炊き出しを行った。事業所独自で食料や水、日用品を備蓄している。	法人が主体となった訓練を実施している。併設施設との連携も大切であるが、事業所主体の訓練を行うことで、災害発生時の初動について意識付け出来るように工夫して欲しい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助や話しかける際は、同じ目線にするよう配慮している。トイレや入浴時などは、その人の気持ちを優先させ、さりげなく声をかけている。	職員は、利用者の話を傾聴することを大切と考え、目線を合わせて寄り添うように声を掛けている。脱衣場にプライバシー保護のカーテンを設置してプライバシーの確保に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者ひとり一人に担当職員が決まっているため、本人の思いを聞き取り他職員にも共有し話し合いを持つ事ができる。その結果、利用者の希望をなるべく尊重できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リビングでは利用者が思い思いの事をして過ごす。なじみの人に会いに行く人、調理をしたりテレビを見たり、新聞を読んだり歌を唄ったりと自由な時間を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回、定期的に美容室を利用してカットや顔剃りをおこなう。入浴時には、洋服を自分で選んだり職員によるアドバイスもおこなう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常において、調理の準備や後片付けなどを職員と共にやっている。また、天気の良い日は庭に出て食事を摂って頂くなど、気分転換の工夫もしている。	家族と一緒にの夕食や季節の物を取り入れた献立、畑で作った野菜を使っでの調理、庭先での食事会など工夫している。買い物と一緒に掛けたり、利用者の好みを聞いて献立を決めたりして食事を楽しめるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事やおやつ、夜間においても意識した水分補給を行っている。また、1回/月 に併設特養の管理栄養士に献立表を見てもらい、アドバイスなどをもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝晩2回の口腔ケアを、職員見守りのもと実施している。義歯の方は、週1回(月曜日)に義歯洗浄剤につけて清潔を心がけている。年1回歯科医による歯科往診をも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意のない方、訴えのない方に対しても定時の誘導、落ち着かれない行動を察知して誘導を行うなど、気持ちの良い排泄支援を目指している。	居室の近くにトイレがあるため、ポータブルトイレを使用することはない。日中は全員トイレ誘導を行っている。排泄表により、排泄パターンを把握して、失敗しないように個別に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立や調理の工夫（繊維質を多く摂る）、水分摂取量の基準（1日1200ml）を目安に提供している。また、運動のため外への散歩や併設特養までの散歩を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は一応設定しているが、その日の気分や体調で変更や交代もある。また、突発的なことに限ってはこれの限りではない。季節（夏場）などは、皮膚の状態に合わせて入浴の回数を増やしている。	入浴日は決まっているが、利用者の希望に合わせて、入浴する日や時間を変更することができる。職員は一緒に歌を歌ったり、会話を楽しんだり、話を聞いたり、柚湯などで季節感を醸し出したりして楽しい入浴となるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠のため、荷中の活性化を支援、家事やアクティビティへの参加を促しているが、希望あれば自室にて休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬を職員が管理、医師の指示により適切に配薬している。新しく処方された薬や形態変更においては、本人に随時説明している（一部利用者）。職員間での情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喫茶店・買い物・外出などを希望される利用者の方には定期的な外出支援を行い、畑での野菜作りや花植えも職員と一緒にやっている。また、利用者同士の交流が深まるような場を作り出す工夫をしている。（折り紙・ぬり絵・体操など）		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	併設施設で行われるイベントや定期行事に参加し、利用者同士の交流、生活の活性化を行っている。ご家族と相談・協力を得ながら外出支援を実践している。	定期的に買い物や利用者の希望に合わせた外出を行っている。職員が家族に連絡して外出先で待ち合わせることもある。急な散歩や畑の草取り、水やり、併設施設の観音様のお参りなど利用者の希望に合わせて出掛けている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者が自分の小遣いを管理されており、施設内での販売や外出の際の支払いなど自己にて行っている。また、買いたい物がある時は職員に希望を伝え、その店に出向く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望あれば電話してもらったり、「家に帰りたい」など不安の訴えある時は、ご家族に電話をし声を聞いて安心してもらえるよう配慮している。個人で携帯電話を持ち、家族や友人と連絡を取っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然に囲まれた環境で、四季の移り変わりを身体で感じ暮らすことができる。朝は鳥の声で目が覚め、風が吹いたり雨が降ったりと利用者の五感に刺激を与えてくれるリビングからの眺めは、楽しみなひとつである。	リビングに季節の生け花、玄関先には季節に合わせた切り絵が飾られている。廊下には行事の写真が飾られ話題を提供している。行事の写真をテレビに写したり、利用者の好みに合わせてソファの配置を変更したり居心地良く過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内にはソファや椅子が点在しており、自分の好きな時に気の合う仲間と自由に過ごして頂いている。また、一人になりたい時は居室で過ごす方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所された方には、家で使用していた愛用の身の回り品を持参して頂いている。本人が落ち着ける空間を心掛けている。	家族の協力を得て、使い慣れた家具やテーブル、椅子を持ち込んでいる。ご主人の遺影に毎朝お水を上げることを支援したり、利用者と相談して家族などの写真を飾ったり落ち着ける空間作りを心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋が分からなくなった方のために、居室ドア・入り口に表札を付けたりトイレには「トイレ」と大きな文字で表記している。		